

令和5年10月27日

太田市議会議長 矢部伸幸 様

立憲民主党 岩瀬 僚

JIAM（全国市町村国際文化研修所）研修報告書

「議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」

1 期日 令和5年10月23日(月)から10月24日(火)

2 研修先 全国市町村国際文化研修所

3 研修内容

・地方議会の展望

早稲田大学 名誉教授 北川 正恭氏

・議会改革度調査から見る地方議会

早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 中村 健氏

・奥州市議会における議会改革の実践～激動の6年間を振り返る～

岩手県奥州市議会 議長 菅原 由和氏

・宮田村議会の取り組み

長野県宮田村議会 議長 天野 早人氏

受 付	議会総務課
	令和5年10月27日
	第 357 号

「議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」について

概要

地方議会の現在地として、30年前に衆参両院の全会一致で分権改革推進の決議があり、28年前地方分権推進法が制定、23年前地方分権一括法が制定(機関委任事務全廃)されました。国と地方が上下主従から対等協力になり、地方の自己決定と自己責任の地域自立の時代になりました。

地方議員には政務調査費に次いで政務活動費が認められるようになり、8年前地方創生法が制定され、3年前第二期地方創生法が制定されました。現在、これらの法改正の実装化の時代となり、分権化するだけでなく地域を主体的に創生する覚悟が議員には求められるようになりました。

ルールオリエンティッドな執行部とミッションオリエンティッドな議会が対等な機関として競争する。議員活動と議会活動を両輪として回し、議会事務局とチーム議会で活動のシステム構築を行う。

その実例として、岩手県奥州市議会と長野県宮田村議会の紹介が行われました。

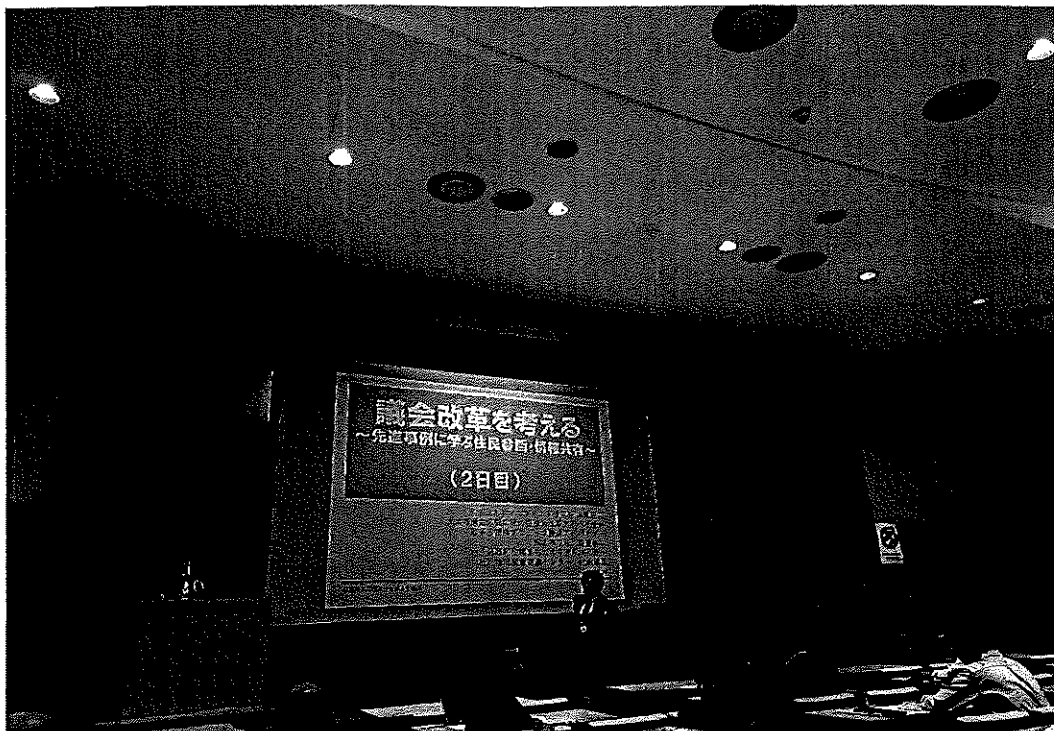
所感

奥州市議会の「見える化」について尽力されている菅原由和議長の責任感を感じた。特にデジタル化・情報戦略の展開に力を入れており、インターネット中継でのライブ字幕表示、傍聴席ライブ字幕の表示、ネット配信と133の国と地域の外国語翻訳に対応、議会BCPの活用等としてLINE WORKSの導入など先進性を感じた。

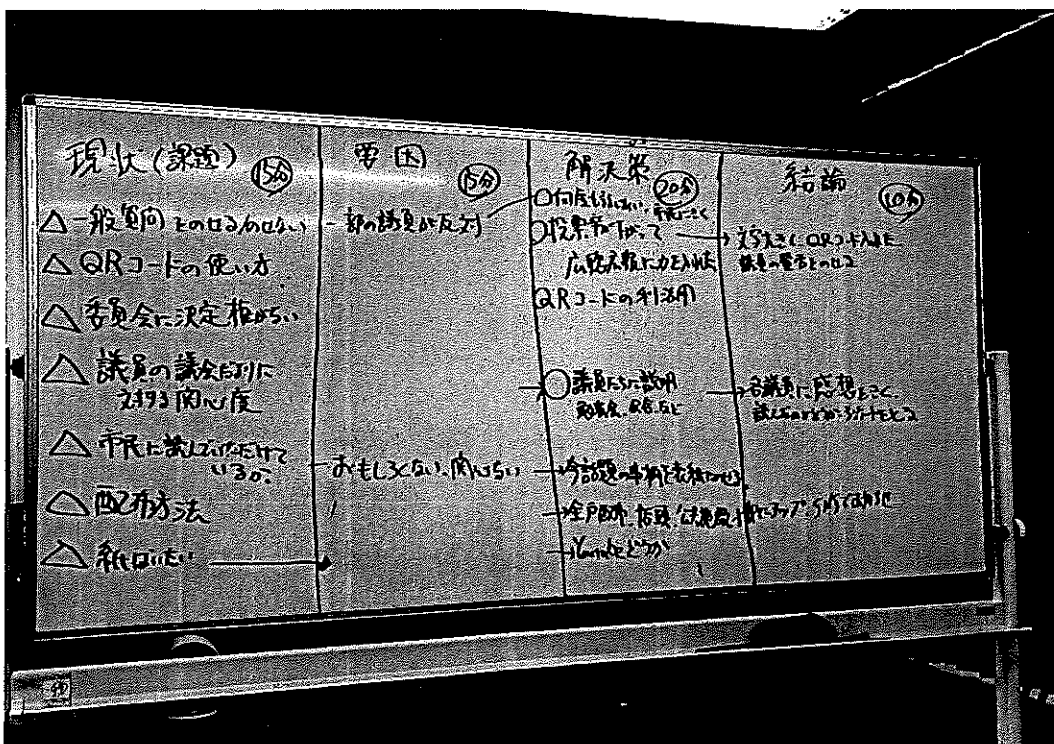
宮田村議会においては、議長職を5年勤めている元野早人議長と事務局長の2人が登壇された。議会基本条例第37条「住民参加の推進」に基づいた「むらびと会議」では、一般委員の方とは別に高校生委員を招いて議会だよりの編集・評価を議論、特に一般委員には女性の割合が70%以上の参加ということで、村政を自分の生活と結びつけて考える女性委員の多さに驚いた。議会だよりの編集・評価については高校生たちから様々なアイデアが出されていた。議会用語や行政用語をなるべく平易な言葉に変え、デザインも文字数よりも見やすさを強調したものになっていた。

また、中学生への主権者教育や新任議員への研修制度の見直し、体系化なども充実させており素晴らしいものであった。ミッションオリエンティッドな議会をつくろうと尽力されている議長と事務局長の熱意を感じつつも、議会改革推進が実施されるまでに5年の議長期間がかかったということで、少人数議会の小回りがきいたとしても歳月がかかり、継続した努力が必要であると感じた。それでも公民教育に参画して、中学生の職場体験学習の受け入れ、学習時間で議会講演会実施実践活動が早稲田大学マニフェスト研究所から高い評価を受けていた。

分権化改革の旗手であった元三重県知事であり早稲田大学の北川正恭氏の議会にかけける想いは強いものがあり、中央政界とは異なった地方議会の可能性と地方議員の役割について意識を新たにした。



(先進事例に学ぶ住民参加・情報共有)



(議会だよりの編集・評価に対するワークショップ)